

# 社会資本総合整備計画

平成 26 年 3 月 24 日

計画の名称	コンパクトなまちづくりを進め、中心市街地のにぎわいの再生・創出と安全安心なまちづくりを実現する。(防災・安全)		
計画の期間	平成22年度 ～ 平成26年度 (5年間)		
計画の目標	<p>総合計画で位置づけられたコンパクトでまとまりのあるまちづくりを実現するため、「3 駅プラス 1」を核として、都市計画マスタープラン、緑の基本計画、地域防災計画等を策定した。「幸田町地域防災計画(平成24年3月修正)」によれば、東海・東南海地震の予測においては震度5強から6強となり、建物総数約15,000棟のうち、全壊家屋約50棟、半壊家屋約350棟、死者数は約10名、負傷者約90名となり、被災者は町全体で約2,700名、帰宅困難者約3,000名という莫大な被害、また道路の寸断、情報通信の途絶等により、二次災害等の発生が想定される。安全安心なまちづくりを実現するため、防災基盤の整備を行い、町の防災機能の向上を図り、さらに地域住民と一体となった防災まちづくりへの取り組みも進める。併せて、安全安心で快適なまちづくりを実現するため、公園機能の向上を進め、住みやすいまちを目指す。</p>		
計画の成果目標(定量的指標)	定量的指標の現況値及び目標値		
	当初現況値	中間目標値	最終目標値
	(H22当初)	(H24末)	(H26末)
・都市公園のトイレのバリアフリー化率を24%(H22)から41%(H26)に改善	24 %	24 %	41%
・町全体での住民意識調査において、幸田町の住み心地満足度は83.5%(H21)と高い数値となっている。しかし、近年進む新市街地供給により、コミュニティ形成がうまくされないことなどの理由から、新市街地の新住民が「住みにくい」と感じるまちが形成され、この住み心地満足度が低下することが予想される。しかしながら、コミュニティ形成や、安全安心につながる施策を実施することにより、新市街地においても、「住みやすい」まちを実現していき、住み心地満足度85.0%を目指す。	83.5 %	83.5 %	85.0 %
・防災行政無線のデジタル化により、J-ALERTによる緊急地震速報の伝達可能人口カバー率を0%(H22)から99%(H26)に増加させる。	0%	60%	99%
・住民意識の向上により、地域単位で行っている防災訓練の参加者数を1,177(H22)人から1,294(H26)人に増加させる。	1,177人	1,177人	1,294人
・都市公園の安全性の確保及びライフサイクルコストの縮減するため、幸田町における公園施設長寿命化計画の策定調査する公園を、0公園(H22、H24)から16公園に増加させる。	0公園	0公園	16公園
<b>交付対象事業</b>			
<b>A1 基幹事業</b>			
番号	事業種別	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)
1-A-4	公園	幸田町	都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業(幸田町)
1-A-6	都市防災	幸田町	都市防災総合推進事業(防災情報通信ネットワーク)
1-A-7	公園	幸田町	公園施設長寿命化計画策定調査事業(幸田町)
<b>C 効果促進事業</b>			
番号	事業種別	事業者	要素となる事業名
1-C-15	活動支援	幸田町	地域住民の手による防災マップづくり事業
1-C-16	施設整備	幸田町	防災行政無線(デジタル)整備事業
1-C-17	施設整備	幸田町	都市公園トイレ整備事業
全体事業費	193百万円		

(参考図面)

平成 26 年 3 月 24 日

計画の名称	コンパクトなまちづくりを進め、中心市街地のにぎわいの再生・創出と安全安心なまちづくりを実現する。(防災・安全)		
計画の期間	平成22年度 ~ 平成26年度 (5年間)	交付対象	愛知県幸田町

